



「SDGs副専攻」課程が本格スタート！ SDGsのローカライゼーションを推進し 持続可能な社会づくりの担い手を育てる



SDGs副専攻 カリキュラム表

科目区分	科目名	科目配置	配当年次	単位数	17ゴール	修了要件	
必修科目	総合科目	共通科目	1	2	01~17	2科目4単位必修	
		共通科目	2	2			
	副専攻ゼミ	SDGs基礎セミナー	共通科目	3	2	01~17	2科目4単位必修
		SDGs特別セミナー	共通科目	3	2		
選択科目	第Ⅰ群	共通科目 専門科目	1~3	1~2	01~06	2科目4単位 選択必修	
	第Ⅱ群	共通科目 専門科目	1~3	2	07~11	2科目4単位 選択必修	
	第Ⅲ群	共通科目 専門科目	1~3	2	12~17	2科目4単位 選択必修	

系的・段階的に学ぶことができます。必修科目として講義2科目とセミナー2科目を履修、選択科目として3つの科目群のそれぞれから2科目以上（合計6科目以上）を履修します。全体で20単位以上の単位取得が必要です。特にセミナーはSDGs副専攻希望者だけが履修するアドバンスト・プログラムです。修了要件を満たせば、主専攻の学

位記に加えて、副専攻の修了証が授与されます。

SDGsの達成に向けた全学的な取り組み

目白大学は現在、8学部16学科、大学院7研究科、短期大学部3学科、学生数6099名（2022年度）を擁する総合大学です。都内新宿区にある新宿キャンパス（文系キャンパス）と、さいたま市岩槻区にあるさいたま岩槻キャンパス（保健医療・看護系キャンパス）で、それぞれ特色ある学びを展開しています。目白大学の母体である「研心学園」の創設が1923年であることから、2023年に目白学園は100周年を迎えます。目白大学は2011年4月に「目白学園環境宣言」を採択し、

以来、学校法人目白学園地球環境の保全及び低炭素社会への貢献推進委員会を中心として、全学的エコキャンパスづくりと地球環境問題の解決に向けた組織的な取り組みを推進してきました。2019年4月からはこれを拡大改組して、学校法人目白学園エコキャンパス及びSDGs



新宿キャンパスのSDGsラッピング(10号館 入口)

さいたま岩槻キャンパスのSDGsラッピング(コミュニティ・プラザKirin入口)

プロジェクト推進委員会を発足。2020年7月には「目白学園SDGs取組宣言」を採択し、SDGsの達成と持続可能な社会の実現に向けた取り組みを、全学をあげて推進することを宣言しました。

SDGsプロジェクトの主な取り組みとしては、①新宿キャンパスとさいたま岩槻キャンパスの校舎に「SDGsラッピング」を設置、②本学ホームページにSDGsサイト「目白大学・目白大学短期大学部×SDGs」を開設、③その中で各学部学科・研究科や全学における取り組みをSDGsの17目標に関連付けながら紹介、④さらに本学の共通科目や専門教育科目の中から「SDGs関連科目」を各学部学科の選定に基づきリストアップ、⑤飲料自販機やエレベーターのデジタルサイネージでもSDGsの取り組み画像を映写するなど、キャンパス内のあちらこちらにSDGsのさまざまな仕掛けが施されています。

さらにエコキャンパスづくりの取り組みとして、①「森の学園」の愛称で親しまれているキャンパス内樹木の定期的な剪定・

「SDGs副専攻」課程が2022年度よりスタート

2022年4月より、目白大学新宿キャンパス全学部学生を対象に「SDGs副専攻」課程がスタートしました。SDGs副専攻では、自分の「主専攻」以外の分野も幅広く学びながら、ものごとのつながりや関係性・多様性を認識することで、私たちが取り巻く社会や世界を構造的にとらえるシステム思考と問題発見力を養います。世の中の動きや社会的諸課題に広く関心を持ち、それを自分事としてとらえ、知識の習得はもとより、課題の解決に向けて行動したい、そして主体的・積極的に社会に関わり貢献したいといった意欲的・活動的な学生を求めています。将来ビジネスやコミュニティにおいて、リーダーシップとパートナーシップをもつて活躍できる、持続可能な社会を構築する担い手・人材を育成することを目指します。SDGs副専攻は、共通科目として開講されている科目のほか、さまざまな学部・学科からなる学際的カリキュラムで、SDGsについて体

施設による植栽管理、②施設・設備面では、高効率空調機やヒートポンプ式給湯器、LED照明や人感センサー、中水道システムや透水性インターロック舗装の導入など、③環境マネジメント・環境教育の分野では、電気使用量・ガス使用量・CO₂排出量などの環境関連データの公開、環境ホームページ「Eco Campus」の管理、学生自らが企画し実施する環境プロジェクト「エコアクション」の支援、④さらにこうした取り組み成果をまとめて毎年刊行してきた「エコキャンパスレポート」を、2019年度版から「サステナブルキャンパスレポート」と改称し、本学のSDGsレポートとしてエコからサステナブルへの拡大を図っています。



学園祭「エコアクション」企画

University Information

目白大学・目白大学短期大学部 Mejiro University / Mejiro University College

■新宿キャンパス 〒161-8539 東京都新宿区中落合4-31-1
 ■さいたま岩槻キャンパス 〒339-8501 埼玉県さいたま市岩槻区浮谷320
 URL: <https://www.mejiro.ac.jp>



~教育・地域連携活動の実践事例~

3 地域連携事業「脳の活性化活動 de 目白大学」でSDGsに貢献する



多重課題に取り組んでいる様子

看護学部看護学科主催の地域連携事業は、地域住民が多重課題を通して脳を活性化することを目的としています。将来医療職に携わる学生は、日頃の学修を發揮して、参加者が安全・安心に楽しめるようサポートをします。開始前に看護技術を学修した学生が普段の様子を伺うなど声をかけながら血圧を測定しました。多重課題では、腕を振り、足踏みしながらしりとりや数字を数えることに取り組みました。SDGsでは、あらゆる年齢のすべての人々の健康と福祉を確保することを目指しています。地域とのつながりを大切に、学生とともに、地域住民の健康維持、増進に向けて継続して取り組んでいきます。

9 Unityで新宿＆南相馬観光ゲームの制作と実況動画の公開



新宿＆南相馬観光ゲーム実況動画

メディア学部メディア学科の平山秀昭ゼミは「デジタル技術×UXデザイン」をキーワードに掲げ、Unityゲームプログラミングを中心に活動しています。2022年度3年生は新宿観光振興協会と、2年生は福島県の南相馬観光協会と連携し、それぞれUnityでオリジナルの新宿観光ゲーム、南相馬観光ゲームを制作しました。また制作したゲームの実況動画をYouTubeで公開しました。観光協会から頂いたご意見・ご要望に応えようと「震災から復興する力強い町」などの表現を加えています。この活動により、デジタル技術という専門性を磨くと同時に、社会連携活動を通して持続可能な世界への意識を高めています。

12 食品ロス削減を通じた地域づくりとひとづくり



SDGsアクションフォーラム2022の開催

社会学部地域社会学科飛田満ゼミでは、持続可能なまちづくりの担い手となる人材を育成するプロジェクト型アクティブラーニングを展開しています。2022年度は、新宿区ごみ減量リサイクル課の支援と落合第二地区協議会の協力により、「SDGsアクションフォーラム2022～新宿区食品ロス削減協力店の聞き取り調査とSNSを利用したSDGsアクションプロジェクト～」を開催しました。学生たちは、飲食店やスーパー等、区内12店舗を対象に、登録申請の理由、取り組み内容、成果と課題、協力店登録のメリット、新型コロナウイルスの影響、感染症対策等について聞き取り調査した結果を報告しました。

17 伝統野菜を継承する地域活性化プロジェクトへの参画



内藤とうがらしの定植

社会学部社会情報学科の専門教育科目「ボランティア活動入門A(担当教員:土屋依子)」では、新宿名産の伝統野菜「内藤とうがらし」を通じて地域を元気にする活動「内藤とうがらしプロジェクト」に参画しています。2022年度はキャンパス内での内藤とうがらしの栽培、戸山地区での栽培の支援、区内商業施設での内藤とうがらし販売イベントの支援、とうがらしメニューの提案等に取り組みました。ボランティア活動の実践と、伝統野菜の保全と継承に取り組み専門家・区内事業者の方々と交流を通じて、まちづくりへの関わり方を学び、地域課題の解決に貢献する行動力を育成しています。

~SDGs副専攻セミナー担当教員より~

11 専攻を超えてSDGsの17目標を読み解く 社会学部地域社会学科 飛田 満 教授

専門 社会哲学/環境倫理学/環境政策/環境社会システム

SDGsの17目標について目標ごとに体系的に学修します。SDGsについて詳しく知りたい人はもちろん、SDGsの視点から主専攻分野の学びを深めたい人や、主専攻以外の分野のテーマにも触れてみたい人、さらには社会的課題の解決とそのための活動に関心がある人や、持続可能なまちづくりとそのためのひとづくりに関心がある人のために、発表と討議、意見交換によるアクティブラーニングの形式で、フィールドワークも取り入れながら、学部・学科を超えた広がりのある学びを展開します。



01

3 子どもの支援を軸としたSDGsの探究 人間学部子ども学科 西山 里利 教授

専門 小児看護学・保健/看護技術

SDGsの17目標のうち、特に子どもの支援にかかわる「1.貧困をなくそう」「2.飢餓をゼロに」「3.すべての人に健康と福祉を」「4.質の高い教育をみんなに」「5.ジェンダー平等を実現しよう」「10.人や国の不平等をなくそう」を中心に、現状と課題を学びます。文献検討や意見交換を通して自己の考えを深め、関心のあるテーマについて、フィールドワークをもとに課題解決のための対策を検討し、成果発表を行います。これらを通して、子どもの支援を軸としたSDGsについて探究することをねらいとします。



02

4 SDGsについて深く考え、自分事としてとらえる 人間学部児童教育学科 石田 好広 教授

専門 環境教育/理科教育/持続可能な開発のための教育(ESD)

アクティブラーニング形式の授業やフィールドワークの機会を多く取り、互いの主専攻分野での学びを生かし合いながら、SDGsに関して、多面的・総合的にとらえ、地球環境問題を中心に学修を深めます。また、SDGsを自分事としてとらえ、その目標達成のために、どのように普及啓発したり、行動化したりすべきかについて考え、SDGsの行動化を目指します。さらに、教育的な視点から、持続可能な社会づくりに貢献できる人材育成について考えます。



03

12 SDGsの目標実現に向けて行動する 社会学部社会情報学科 田中 泰恵 教授

専門 社会学/家政学/生活科学/デザイン学

SDGsの目標12(つくる責任、つかう責任)と深く関係しているエシカル消費は、その他の多くの目標の実現にも大きく関わっています。まず、このエシカル消費の活動事例研究を通してSDGsの17の目標全体について改めて理解を深めます。さらにフィールドワーク等を実施して現状を確認したうえで、ゼミ生による目標達成のための実践的な活動の企画・運営を試みます。最終的にはその成果を評価・検討することで、学びを社会の現場で活かす力を養いたいと考えます。



04

9 メディアを学ぶ。SDGsとつながる メディア学部メディア学科 勝野 正博 准教授

専門 メディア論/メディア・リテラシー/メディア・プロデュース

SDGsに関する課題を伝える「メディア」、そして、SDGsの課題でもある「メディア」について、日常のコミュニケーションを批判的に振り返りながら学修します。何気なく接触しているメディアの基礎的な知識を改めて学び、ジェンダー平等や多様性の実現、新たなメディア・テクノロジー(AI、ロボット、メタバースなど)とSDGsの関係を理解します。学生たちは、創造的思考と実践力を活かし、グループワークやフィールドワークに主体的に取り組み、自分たちが抱える問題について解決策を考えます。



05